



写真2 受賞を祝って集まった日本人・中国人たち

ディピティがあったということ。2つは、1950年代から近代の医薬品による医源性の事象がみられるようになったことである。サリドマイド(Thalidomide)は約300人の奇形の赤ん坊を生じ、クリオキノール(Clioquinol)は約3万の麻痺や視力障害を引き起こした。当時、新薬の危険性に

人々の意識が至って、漢方が見直される空気があった。しかしながら、漢方には副作用がないというのは神話である。1990年代小柴胡湯による死亡が生じた。」最後に酒井氏は、「今日、日本で鍵となる問題は、伝統医薬品と伝統理論の乖離である。」とまとめられた。

例会記録

第49回日本医史学会神奈川地方会 秋季例会・

日本医史学会9月例会 合同例会

平成29年9月30日(土)

鶴見大学会館

依頼講演

医史学とマス・コミュニケーション

津田篤太郎先生

企画講演①

黒死病の本態 再々考

滝上 正先生

企画講演②

人類と感染症の歴史：天然痘を中心に

——新興感染症の危険性は減ったのか

加藤茂孝先生

特別講演

西洋医学はなぜ19世紀から発展し現代医学となり得たのか

日本医史学会理事長 坂井建雄先生

日本医史学会10月例会

平成29年10月28日(土)

順天堂大学第2教育棟303教室

1. 『神農本草経集注』と『新脩本草』

——苦菜をめぐる両者のスタンスについて

岩間眞知子

2. 『杉田玄白評論集』の出版について 片桐一男